

野村ユニソン 岩手の東日本大震災被災地 ヌーボー収益で 10年目義援金

洋酒の輸入卸などを手掛ける野村ユニソン(茅野市ちの)は、昨年11月に発売した東日本大震災の義援金付きボーシ

ヨレ・ヌーボーの収益など60万円を岩手県の「いわての学び希望基金」に寄付した。震災の年のワインから始めて10回目の節目になった。

自然派ワインを代表するフランスの生産者フィリップ・パカレさん、ラピエール&シヤヌデさんと契約して輸入している。「がんばれ日本」の文字や1本につき50円を寄付

することを記したオリジナルラベルを貼り、今回は約8300本を販売。同社からの支援分を加えて寄付した。

同基金は震災で親を亡くすなどして経済的に厳しい子どもを支援する目的で設置されており、今年も同社には岩手県知事からの感謝状と基金活用や子どもたちの状況を報告する冊子が届いた。義援金は熊本地震や2019年の台風19号の際も送っており、ワインを通じた寄付の累計は770万円に達した。

同社の宮阪利広常務は「生産者やワイン愛好者のおかげで続けられてありがたい。今後もできる限り続けたい」と話した。

(小尾口有二)



義援金付きボーシヨレ・ヌーボーや岩手県知事からの感謝状を持つ野村ユニソンの従業員